

Ⅲ サービスの状況

図書館は、すべての市民が必要とする資料を提供すること、また、いつでも、どこでも、だれもが気軽に図書館を利用できることを目指してサービスを展開しています。資料の貸出、予約・リクエスト及びレファレンス(図書等についての相談)は、サービスの重要な柱です。また、すべての市民をサービスの対象とする中では、当然、児童サービスや障がい者サービスに力を入れています。

※利用状況の推移、他自治体との比較等は「V 資料」をご覧ください。

1 貸出サービス —登録・利用状況—

我が国で貸出が公共図書館のサービスとして定着したのは1970年代以降のことです。

それ以前の図書館では、自由に書架の本を手にとることもできず、職員に書庫から出してもらった資料を館内で読むような「館内閲覧」に重きが置かれていました。

昭和48(1973)年に開館した多摩市の図書館では、開館当初から「館内閲覧」よりも「館外貸出」に力を入れ、市民生活に図書館サービスが定着するよう努力してきました。

(1) 利用者登録の状況

多摩市の貸出サービスの実績は全国的にもかなり高い水準ですが、登録者数は目立つほど高くはありません。貸出冊数の制限がないため、家族の分も1人のカードでまとめて借りることが多いのがその一因と考えられます。また、登録者の統計が自治体によって不統一で、適正な比較ができないこともあります。近年の傾向としては、相互利用による他市の市民の登録は増加が見られます。

登録状況概要

	登録者 (人) a	利用者 (人) b	人口に対する 登録者割合 a/人口	人口に対する 利用者割合 b/人口	登録者に対す る利用率 b/a
市内	50,673	33,232	34.7%	22.8	65.6%
市外	11,404	6,288			55.1%
その他(入院等)	13	5			38.5%
合計	62,090	39,525			63.7%

※登録者：平成24年度の新規登録者及び過去3年間に貸出実績のある人数の合計

※利用者：平成24度に貸出実績がある人数